

研究の計画

I 研究主題

未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育
 ー生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成ー

II 研究のねらい

- 子ども一人一人が、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。
- 生活を見つめ、人やもの、こと、環境と豊かに関わりながら課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。

III 研究の視点

1 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画

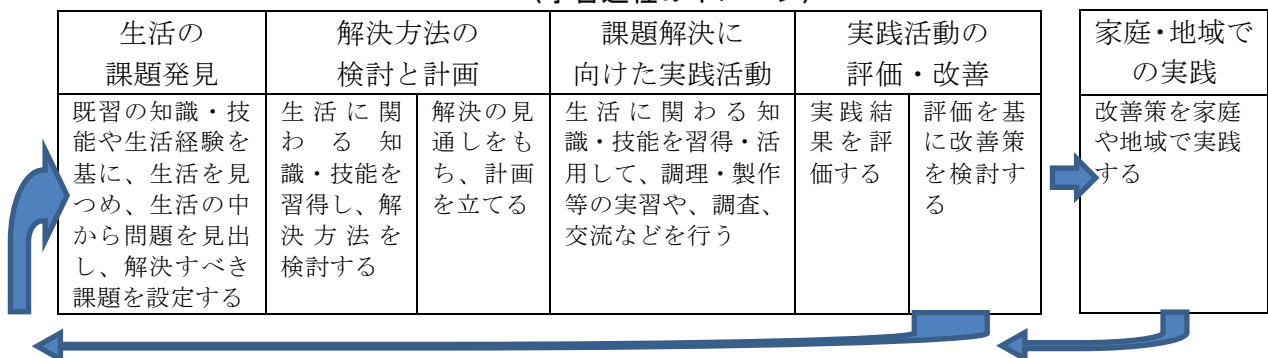
- (1) 指導内容の系統性及び育成すべき資質・能力の明確化
 - 小・中学校5年間の学びの見通しをもち、系統的な指導が行えるよう指導計画を見直す。
 - 「知識及び技能」の習得に係る事項と、「知識及び技能」を活用して「思考力・判断力・表現力等」を育成することに係る事項との関連を図りながら、各題材で育成すべき資質・能力の明確化を図る。
- (2) 連続性を重視した題材構成や配列の工夫
 - 各題材で重点的に指導する内容と、知識及び技能の定着を図るために繰り返し指導する内容を明確にする。
 - 段階的に繰り返し学びながら基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られるよう題材構成や配列を工夫する。
- (3) 家庭生活を総合的に捉えた題材や教材の開発
 - 「A家庭生活と家族」「B日常の食事と調理の基礎」「C快適な衣服と住まい」「D身近な消費生活と環境」の内容を相互に関連させた題材や教材の開発に取り組む。
 - 他教科等や学校行事等との関連を明確にし、より身近な題材や教材の開発に取り組む。

2 できる・分かる・考える授業づくり

できる・分かる・考える授業とは…

- 課題追究を通して、自分の思いや願いがかなうわくわくする授業
- 生活に必要な力が身に付いたと実感できる授業
- 身に付けた力を基に、生活をよりよくする方法を新たに考え出す授業
- 課題をもち考えたり、考えを出し合ったりしていきいきと解決を目指す授業
- 家庭生活に生かしたいという実践意欲がむくむくと沸き起こる授業

〈学習過程のイメージ〉



- (1) 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫
 - 学習のならいを明確に設定し、子どもが見通しをもって主体的に学び、振り返ることを通して学習内容を身に付けることができるような学習過程を工夫する。
 - 子どもの気付きを促す手立てや、実生活とのつながりを重視した学習展開を工夫する。
 - 個に応じた指導の充実を図り、ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法を工夫する。
- (2) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
 - 「できる」「分かる」を実感したり、科学的な理解を深めたりするために、五感を生かした直接体験や、実生活につながる模擬体験等を充実させる。
- (3) 対話的な学びの充実
 - 課題解決に向けて協働したり、話し合ったりして、考えを広げ深め合う学習を充実させる。
 - 思考ツール等を用いて、考えを広げたり、まとめたりする活動を充実させる。

3 子どもが伸びる学習評価

- (1) 自己の成長を自覚できる評価の工夫
 - 子どもの思考を可視化し、学習の過程を評価できるワークシートや評価カードを工夫する。
 - 2年間の自己の学びや成長を感じることでできるワークシートや記録の仕方を工夫する。
- (2) 子どもの成長や授業の改善に生きる評価の工夫と蓄積
 - 目標を明確にし、具体的な評価規準を基に適切な方法で評価したものを蓄積し、子どもの指導や授業の改善に生かすなど、目標・指導・評価の一体化を図る。
 - 子どもの思考の変容や伸びを見取る多様な評価方法を工夫する。

4 家庭・地域との連携

- (1) 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫
 - 学校と家庭生活のつながりを重視した指導計画を工夫し、保護者や地域人材を積極的に活用する。
 - 生活文化の大切さや郷土のよさに気付く題材開発に努める。
- (2) 継続的な実践を促す工夫
 - 各種通信の発行、参観日等を活用したり、長期休業を実践の場として設定したりするなど、習得した力を実生活で活用できるように工夫する。

IV 留意事項

- 新学習指導要領の実施に向けての2年間の移行措置については、新学習指導要領によることもできる。ただし、移行措置期間の評価については、現行の評価の観点で行う。
- 全面実施の年度を見通した適切な指導計画を作成して指導する。平成31年度の第5学年の指導に当たっては、ガイダンスも含め2学年間を見通して指導計画を作成する必要がある。
- コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用する。
- 消費・環境・福祉・健康問題等の身近な課題を解決しようとする実践的な態度を育成する。
- 栄養教諭等との連携など食に関する指導の充実を図り、調理実習では食物アレルギーなどについても配慮する。
- 家庭科と総合的な学習の時間との違いや関連を明確にし、指導に当たる。
- 道徳との関連を図り、家族や家庭生活を大切にする心情や実践的態度を養う。
- 施設・設備の充実に努め、安全・衛生に関する指導の徹底を図る。